

# ロート製薬の知財戦略：メディカル事業積極投資に向けた戦略的転換の分析



Genspark

Jul 19, 2025

ブックマーク

共有

インスピレーションと洞察から生成されました [9 ソースから](#)

## エグゼクティブサマリー

ロート製薬は瀬木英俊社長のリーダーシップの下、従来のセルフケア事業中心から、再生医療・医療用眼科薬を核とするメディカル事業への戦略的転換を図っている。この経営変革に呼応し、同社の知財戦略も根本的な変化を迎えつつある。現在の知財活用レベル「プロフィットセンター」から更に高度化し、物質特許中心から製法特許重視への転換、グローバル知財展開の加速、オープンイノベーション対応など、メディカル事業の特性に適合した新たな知財戦略パラダイムの構築が急務となっている。

## 現状の知財戦略：高い評価と確固たる基盤

### 1. 特許庁による高評価と統合報告

ロート製薬の知財戦略は、2024年3月の第23回知財投資検討会において特許庁から高く評価された [1](#)。同社の統合レポートは、「ポートフォリオの変革に合わせて知的財産権の注力点を変化させていることを特許出願件数を使って示し、所定のブランドの競争力として知財・無形資産を分析する情報発信を実施」した点で先進事例として紹介された。

特に注目すべきは、長期視点の投資家から「知財だけを取り上げた説明会をしてほしい」という多数のリクエストを受けており、各部門のメンバーが知財を意識するようになり、社内から知財部門への問合せが大きく増加していることである。

### 2. 知財活用レベルと競争優位性

専門コンサルティング機関の評価によると、ロート製薬の知財活用レベルは「レベル3 プロフィットセンター」 [2](#) と位置づけられている。これは知的財産を積極的に活用し、収益向上に繋げている段階を示すものである。

具体的な強みとして：

- **特許・商標・意匠の積極的取得**：「イージーカップ®」など主力製品の構造・デザインを権利化し独占販売を実現
- **ブランド価値向上**：「ロート製薬」「メンソレータム」「肌ラボ」等の商標を国内外で登録・展開
- **競争優位性確保**：特許による模倣品対策で市場の優位性を維持

### 3. スキンケア分野での圧倒的な特許力

中長期成長戦略資料 [3](#) によると、ロート製薬はスキンケア事業において「製薬会社ならではのスキンケア機能成分に対する高い特許力」を保有している。

株式会社パテント・リザルトの特許分析ツール「BizCruncher」による分析結果（2025年4月時点）では：

- **ヒアルロン酸**：特許スコア総合力 No.1
- **ビタミンC**：特許スコア総合力 No.1

この分析は、円の大きさが当該分野の有効特許件数、横軸が各権利者の特許群で最高値を有する単一特許のスコア、縦軸が各権利者の特許群スコア合算値を示しており、ロート製薬がスキンケア領域で最も強固な特許ポートフォリオを保有していることを客観的に証明している。

### 4. 2024年の特許出願動向

IP Force の分析 [4](#) によると、2024年にロート製薬が公開した特許出願は84件に上る。主要な技術分野は：

- 被膜形成性外用組成物
- 刺激感が抑制された眼科組成物
- 皮膚外用組成物
- 検査キット・情報処理システム
- ミノキシジル含有外用組成物
- 眼科組成物
- 育毛促進用組成物
- コンタクトレンズパッケージ

この出願分野は従来のセルフケア事業を反映したものが大半を占めているが、眼科組成物や検査キット等、メディカル事業への移行を示唆する出願も含まれている。

## メディカル事業投資戦略と知財への影響

### 1. 戦略的転換の規模と方向性

PDF レポート分析 [5](#) によると、ロート製薬は以下の投資戦略を推進している：

#### 投資規模：

- 研究開発費は連結売上高比最大 5% を継続投入
- 2030 年の想定売上 4,150 億円に対し年間 200 億円規模の R&D 投資

#### 注力分野：

- 再生医療：間葉系幹細胞（MSC）製剤（ADR-002K、ADR-001 等）
- 医療用眼科薬：近視進行抑制点眼薬「ROH-001」（TLM-003）
- CDMO 事業：細胞培養受託サービス・AOF 培地事業

## 2. 技術的強みと知財戦略への示唆

ロート製薬の技術的強みは：

- 無菌製剤技術（点眼薬生産での高い無菌化品質・製剤ノウハウ）
- 細胞培養技術（スキンケア研究での細胞培養経験）
- AOF 培地開発（Animal Origin Free 培地による安全性強化）

これらの技術は、Gemini レポート [6](#) で指摘されているように、「独自技術」「独自細胞製造技術」として知財優位性の基盤となるが、具体的な特許番号や権利範囲の詳細は今後の開示が必要である。

## 業界トレンドと知財戦略変化の必然性

### 1. 再生医療分野における製法特許の重要性

デロイトの分析 [7](#) によると、再生医療医薬品分野では従来の物質特許中心から製法特許重視への転換が業界全体のトレンドとなっている：

#### 製法特許重視の背景：

- 再生医療医薬品は物質として定義することが困難
- 細胞培養技術や遺伝子導入に関するプロセスの重要性が高い
- 製法特許は他社プロセスにも権利が及ぶ可能性がある

#### 戦略的含意：

- プロセス権利の相互ライセンス（クロスライセンス）の必要性
- 業界標準化への対応
- オープン戦略とクローズ戦略のバランス

### 2. 製薬業界の知財戦略トレンド

中外製薬の事例 [8](#) 等から読み取れる製薬業界の知財戦略トレンドは：

- グローバル化対応：海外での権利化強化
- ライフサイクルマネジメント：物質から用途、製剤・製法、診断・個別化医療まで

網羅

- **早期連携**：ビジネス部門、法務部、研究拠点間の継続的連携
- **コラボレーション強化**：外部企業、学術機関との共同知財活動
- **競合マッピング**：独自データベースによる他社動向可視化

### 3. デジタルヘルス・DTx 分野の新潮流

日本製薬工業協会の分析 [9](#) によると、デジタルヘルス関連特許は：

- **出願数急増**：2010 年代中盤から後半にかけて増加
- **スタートアップ主導**：約 70%が企業出願、うち大半がスタートアップ
- **重層的保護**：複数特許の組み合わせによる包括的製品保護
- **画像意匠活用**：特許と意匠の重層的保護戦略

## 今後の知財戦略変化予測

### 1. ポートフォリオ構造の転換

現状（従来型セルフケア中心）：

- 物質特許・製剤特許中心
- 国内市場重視
- 単一製品保護型

将来（メディカル事業中心）：

- 製法特許・プロセス特許重視
- グローバル同時権利化
- 複合的・重層的保護型

### 2. 戦略的重点領域の変化

再生医療分野：

- **MSC 製剤技術**：培養プロセス、品質管理、安全性確保技術
- **AOF 培地技術**：動物由来成分フリー培地の製造・品質管理
- **CDMO 技術**：受託製造における標準化・効率化技術

医療用眼科薬分野：

- **近視進行抑制技術**：TLM-003（4-PBA）関連技術
- **坪田ラボとの共同知財**：実施許諾契約に基づく権利活用
- **眼科 DDS 技術**：点眼薬の浸透性・安定性向上技術

### 3. リスクマネジメントの高度化

知財リスクの多様化：

- 特許戦争リスク：富士フィルム、アステラス製薬等の競合との権利抵触
- クロスライセンスリスク：製法特許の持ち合いによる交渉複雑化
- グローバル権利化リスク：各国規制・法制度の差異対応
- オープンイノベーションリスク：外部連携における知財管理

対応戦略：

- 早期 FTO (Freedom to Operate) 調査の実施
- 包括的ライセンス戦略の構築
- グローバル知財管理体制の強化
- 戦略的パートナーシップの活用

#### 4. 組織・人材戦略の変化

知財部門の役割拡大：

- 事業戦略立案への参画
- グローバル連携体制の構築
- オープンイノベーション管理
- リスクマネジメント強化

必要な専門性：

- 再生医療・細胞治療技術の深い理解
- 国際特許実務の経験
- 製法特許・プロセス特許の戦略立案能力
- ライセンス交渉・契約管理能力

#### 戦略的提言

##### 1. 短期的施策 (1-2 年)

ポートフォリオ分析の実施：

- 既存特許の棚卸しと価値評価
- メディカル事業関連の権利強化ポイント特定
- 競合との権利関係マッピング

グローバル体制構築：

- 海外知財専門人員の配置
- 主要市場での早期権利化推進
- 現地法律事務所との連携強化

##### 2. 中期的施策 (3-5 年)

製法特許戦略の確立：

- MSC 製剤・AOF 培地等の製造プロセス権利化
- クロスライセンス戦略の策定

- 業界標準化への積極的参画

#### オープンイノベーション対応：

- 外部連携における知財管理プロトコル確立
- 共同研究・共同開発の知財ガバナンス強化
- スタートアップとの連携モデル構築

### 3. 長期的施策（5-10年）

#### 次世代技術への対応：

- AI・デジタルヘルス分野への知財戦略展開
- 遺伝子治療・細胞治療の新技术対応
- パーソナライズド医療関連の権利確保

#### 価値創造型知財活動：

- 知財収益化モデルの多様化
- ライセンスアウト・技術移転の積極化
- 知財を活用した事業創出支援

## 結論

ロート製薬の知財戦略は、メディカル事業への積極投資という経営戦略の転換に対応し、根本的な変化を遂げる必要がある。現在の「プロフィットセンター」レベルから更に高度化し、グローバルな製法特許戦略、オープンイノベーション対応、リスクマネジメント強化を通じて、新たな成長領域での競争優位性確保を図ることが不可欠である。

特に重要なのは、従来の物質特許中心から製法特許重視への転換であり、これにより再生医療・医療用眼科薬分野での技術的優位性を権利として確保し、同時にクロスライセンスや業界標準化といった新たな競争環境に適応することである。

成功の鍵は、技術理解の深さ、グローバル対応力、そして戦略的パートナーシップの活用であり、これらを統合した包括的な知財戦略により、ロート製薬のメディカル事業投資が真の競争優位性と持続的成長を実現できるかが決まるであろう。

---

#### 主要参考資料：

- [ロート製薬統合レポート 1](#)
- [知財活用レベル分析 2](#)
- [中長期成長戦略資料 3](#)
- [再生医療知財戦略分析 7](#)
- [デジタルヘルス知財動向 9](#)
- [特許出願動向 4](#)

---

## Appendix: Supplementary Video Resources



【業界研究】複雑そうな医薬品業界について知ろう！特許 ...

Nov 24, 2022

もっと詳しく

1

[yorozuipsc.com](http://yorozuipsc.com)

2

[yorozuipsc.com](http://yorozuipsc.com)

3

[finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp](http://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp)

4

[ipforce.jp](http://ipforce.jp)

5

[page.gensparksite.com](http://page.gensparksite.com)

6

[page.gensparksite.com](http://page.gensparksite.com)

7

[www2.deloitte.com](http://www2.deloitte.com)

8

[www.chugai-pharm.co.jp](http://www.chugai-pharm.co.jp)

9

[www.jpma.or.jp](http://www.jpma.or.jp)